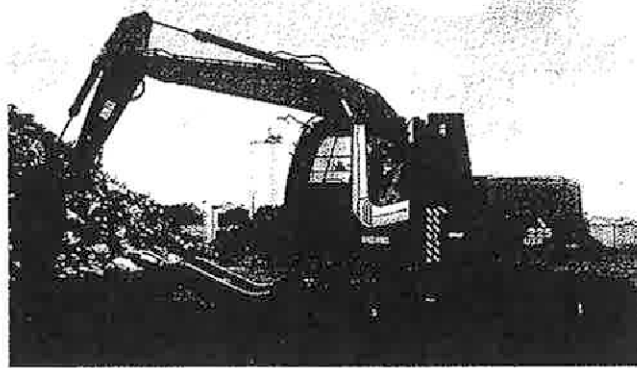




ナベショー 中古建機販売が好調

サイト 立上げ 半年で取引50件超

製鋼原料商社の大手、ナベショー(本社大阪府、渡邊泰博社長)の中古建設機械販売事業が好調に推移している。今年4月、金属リサイクル企業向けを中心とした中古機械売買仲介サイト「ナベネット」(URL: <http://nabe-net.net>) を立ち上げるなど、本格的に中古機械事業へ着手。半年で取引件数は50件以上に拡大した。



再メンテナンスを行って販売、差別化を図る

など関連事業も手掛ける中、鉄スクラップ事業の一環として昨年から中古建機の販売事業にも着手。顧客サービスの充実と販路拡大を図っている。

一般的な中古機械のオークション・売買仲介サイトで流通している商品は、一般的に現状のまま引き渡すケースが大半だが、ナベショーでは売買を仲介する際に、同社が販売するアタッチメント式切断機「もうカッター」を製造するオカザキ(本社大阪府高槻

市、岡崎貢社長)、機械メーカーのテツカ(本社福岡県古賀市、下田善吉社長)などと協力し、原則として点検から整備、塗装等の再メンテナンスを行って販売。他社と同様のサイトとの差別化を図る。

サイト立ち上げ以前からも、中古機械の取引を行ってきたが、当初、取扱商品はギロチンやプレス機などの加工設備が中心だったが、現在は重機、トラックスケール、ダンプ各種車両など金属スクラップ関連設備の大半を扱う。

主力の鉄スクラップ事業を活性化する営業ツールとしての役割もあり、「鉄スクラップ専業」だけでは、過当競争に巻き込まれるケースが多い。今後、中古機械事業も会社の基盤の一つとして、顧客の要望にできるだけ応えていく(渡邊社長)方針。

ナベショーは1909年(明治42年)創業の老舗商社で、11年12月期の鉄スクラップ取扱数量は約280万トン。ここ数年は異業種ネットワーク構築にも注力し、マンシヨンドベロッパや解体業者、不動産業、家電メーカー、広告会社、税理士事務所、コンサルティング業、証券会社などと事業提携を結び、ベンチャー企業グループ「Next One's Club(N.O.C)」を立ち上げた。営業拠点は大阪本社、東京、名古屋、姫路、岡山、総社、東京(西葛西・麻布・赤坂)、福岡。